

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第59号

2022年7月15日発行

～野菜の分類(植物学)クイズ～

答は、本ページの下にあります

野菜の植物学的な分類は、連作障害を防ぐなど栽培計画に役立ちます。

同じ分類に属する野菜の組み合わせはどれでしょう。

(1)なす



(2)枝豆



(3)じゃがいも



(4)かぼちゃ



(5)きゅうり



(6)らっかせい



<答>

(1)なすと(3)じゃがいも：ナス科、 (2)枝豆と(6)らっかせい：マメ科、 (4)カボチャと(5)きゅうり：ウリ科

1. 第19回定期総会について

総務部会長 小松信彦

当推進協議会の第19回定期総会が、令和4年5月21日（土）午後2時30分からあびこ市民プラザ・ホールで開催されました。集会形式での総会は第16回総会から3年ぶり（第17回・第18回は書面総会でした）となりましたが、当日の会員出席16名、委任状の提出82名の状況にて会則により成立しました。会則に基づき齊藤会長が若王子副会長を議長に指名し議事進行しました。来賓として、青木副市長が協議会の活動について①援農ボランティア活動②学校給食野菜搬送活動のほか、あびこエコ農産物キャンペーン支援活動などに謝辞を述べられ、また、新型コロナワクチンの4回目が準備中である旨、説明されました。



議案として、第1号議案 令和3年度活動報告について 第2号議案 令和3年度収支決算報告について 第3号議案 令和4年度活動計画について 第4号議案 令和4年収支予算案について 第5号議案 令和4年度新役員の選出について審議いただきました。審議においては①第4議案収支予算案の内、運営管理費が昨年と比し、100万円近く増加しているが多すぎないか、また、毎年100万円ずつ増加するのか。との質問があり、①運営管理費の大半は、事務員の給与であり、年々単価が増加していること。また、活動報告でも説明している通り、昨年度はイベント・行事がほとんど実施できなかったため、それに伴う消耗品等の消費も少なかったため、予算との乖離が生じた。今年度は活動したいと想定するため、増額している。なお、次年度以降の予算は100万円ずつの増加ではなく、活動した年度と同額程度の増加と見込まれると説明した。その他関連質問として、援農ボランティア組織の存在はとても良い。更に、新規就農者への支援や農家が継続できるような援ボ機能や仕組みがあると良いなどの提案がありました。これについては、貴重な意見として、今後の運営委員会をはじめとする関係部会で協議、検討していく説明しました。

その後、すべての議案とも挙手多数により原案通り承認されました。その後、新役員の紹介を行い、無事終了しました。総会への参加された方が少なかったことまた、農家会員の参加がなかったことが大変残念でありました。今後は総会の開催時期・時間帯などを検討して参加者の増加に努めたいと感じました。



2. 齊藤会長挨拶

会長 齊藤 徳剛

去る5月21日に催された当協議会第19回定期総会は3期ぶりに対面により無事開催されました。久しぶりに皆様にお会いできて大変うれしく思いました。その総会におきまして会長に選任していただきました齊藤徳剛です。前年度までの活動経過を踏まえながら、上記総会で承認を得ました「令和4年度活動計画」に即して、当協議会の活動全般をしっかりと推進して参りたいと思います。

今、地球は熱くなってきています、きな臭くもなっています。そんな中でも、私たちは平和を祈念しつつ、地道な活動を続けていきたいと考えます。皆様の協力無くして計画の推進はできません、先ずはこれまで築いてきた各事業分野での諸活動を従前にも増して着実に実行していくのが肝要と考えています。そのうえで、できることを着実にこなし継続していきたいと思えます。しかしながら各部会は実行委員の不足から一部に過大な負担がかかっているのが実情です。エコ農産物普及推進部会では部会長も空席となっていて解消しなければならない課題となっています。興味のある方は是非力を貸していただきたいと切に思っていますので事務局まで連絡をよろしくをお願いします。

今後とも、会員並びに役員の皆様、市役所をはじめ多くの関係者各位と共に、当協議会の継続と社会価値向上を目指したいと思えますので、どうぞご支援とご協力をよろしくお願いいたします



3. 受入農家紹介

◆仲原 千津子さん（我孫子市布施）

常日頃、地産地消推進協議会、援農ボランティアの皆様には大変お世話になり心より感謝しています。この場をおかりしてありがとうございますとお伝えします。

あっという間の30年

設計事務所で4年勤務し結婚を機に退職。その時母に土日祝日休みで、9時5時でいいから手伝ってくれないかい！との誘いに最初は上の資格をとりたいたから無理と言っていたがいつしか・・・三姉妹の次女で、後継ぎでもない又、給料は現物で3年は経費をもつからと言われた。今思えばこれが第一のターニングポイントだっただろう。働けばはたらくほど収入は上がった。（ささやかだけど）



左端が仲原さん（2019年協議会懇親会にて）

子どもができ、畑で遊ぶようになると、農薬を使ったり使わなかったりと中途半端ではいけない！！と思いき無農薬へ。穴のあいたほうれん草や小松菜を美味しい美味しいと食べてくれた消費者の方々がお陰で今があると思います。第二のターニングポイントはやはり従兄の突然の死だろう。

唯一農薬の話しができる従兄がいなくなった事はかなりショックだった。それに母の憔悴してゆく姿、母は生まれ育った実家の行く末に、このままでは先祖、父、母に申し訳がない。ただただこれにつきたのではないかとおもいます。そこで、白羽の矢がたったのが私だ。次男次女夫婦であること、農業をやっていたこと、機械が動かせること、しかしやっている者なら分かると思うが、主力となっていた実家の畑にプラス我孫子の畑、とてもじゃないけど無理、ここでも母に根負け。残せるか残せないかの瀬戸際から残せるに舵がきれてゆくと、母に何か取りついた様に前進が始まる。月曜から金曜は実家、土日は我孫子への生活が始まってゆく、3年位は、畑の後片付けやら、事務処理やらに追われていたと思う。このころ従兄が言っていたこの会へだめもとだと思いつながら支援のお願いに事務所を伺った。やはり規約に外れる事が理由で断られた。しかし、ボランティア側でも断られた男性がいると言うことで紹介して頂きとても助かりました。1年後位だったと思うが、会へ入れるようになったと連絡があり、それではせめて規約の中の我孫子在住になろうと住民票を我孫子市に移した。後々のことで、役員会議でかなり話し合いがあったと伺った。話を聞いたときは、胸が熱くなったことを覚えています。会の皆様方々の暖かい農業支援のお陰で今があります。これからもご迷惑をお掛けすると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

◆染谷 智一郎さん（我孫子市古戸）

20才で就農したころは、世の中が食料不足でした。畑では大麦・小麦・大豆・甘藷と自家消費の野菜、水稻は溜め水の用水で「風呂鍬・備中鍬」での体力作業と牛に力を借りての作業でしたが、昭和45年頃に水田の区画整理と手賀沼からの用水と1区画30アール単位に整備され、田植機・耕耘機・収穫ベルト等の機械が入り、その余力に畑作も一般作物から野菜栽培に変わりました。

トマト・胡瓜・茄子主体の市場出荷が盛んになり、農業普及員の先生方の指導を得て良品出荷に努めました。水稻では佐原・山形と先進地に学び増収と検査米の向上につながりました。

その後、パン食の普及により米が余り生産調整、作付減反がつづき、野菜も指定産地の協同出荷・共選果に市場から追い出される立場になっていきました。自動車による東京方面の家庭訪問販売に多品目の野菜栽培にかわり仲間達と地産地消を目指して販売所（天照神社付近）を立ち上げ30有余年に成ります。

労力不足から援農ボランティアの手助けに頼る耕作になり、今では主体が変わりました、援農ボランティア方々には感謝申し上げます。子供は水稻、果樹の梨・ぶどう、妻は直売所の販売、そして私は援農ボランティアと共に“太陽の恵みをあなたに”をキャッチフレーズに安全安心美味しさをモットーに精進しています、これからもよろしくお願い致します。



備中鍬



風呂鍬

4. 令和4年度役員・実行委員一覧

役職名	氏名	実行委員等		
会長	齊藤 徳剛			
副会長	若王子 範文			
副会長	大炊 三枝子			
副会長	秋田 芳博	農政課長		
総務担当	西田 集	農政課 地産地消係		
会計	西田 集	課長補佐 齋藤 寿義	係長 景山 雄一郎	主任主事 伊藤 臣人
エコ農産物普及推進 部会長	空席	今村 直美	井出 史郎	和田 洋
		栗原 裕子	日暮 俊一	
食育交流部会長	須藤 一宏	香取 典男	八澤 静江	
			サポーター委員 相馬 英里	
援農ボランティア 部会長	井出 史郎	石田 善久	吉田 和子	
		(農家委員) 増田 和男	(農家委員) 荒井 茂夫	(農家委員) 石原 克人
学校給食支援部会長	中村 公一	梅田 昭	関口 敏雄	山崎 甫
		小林 孝夫	梶縄 茂雄	
	学校給食 コーディネーター	折越 揚身		
広報部会長	若王子 範文	日暮 俊一	武井 伸勝	
総務部会長	小松 信彦	齊藤 徳剛	吉田 和子	
会計監事	小林 明弘			
会計監事	仲原 千津子			
事務局	小松 信彦			
	吉田 和子			

5. 援農ボランティア活動をして(第18期)

第18期養成講座 森本 章

私は勤務先も住居も我孫子市でしたので、長年のどかな我孫子の田園風景に癒されて過ごしてきました。いつか自分でも作物を育ててみたいと思っていましたが、なかなか勇気が出ず、そんな時広報で援農ボランティアとしての活動を知ることができ昨年応募いたしました。まだ一年経ちませんが、この活動に情熱を持って取り組まれているたくさんの方々や農家の皆さんと知り合うことができました。このことは毎回農作業のお手伝いのあと分けていただく作物と同じくらい、私にとっては大きな収穫です。そのことが自分の充実した毎日にもつながり、感謝しております。



農作業のお手伝いとは言いながら、雑草の駆除、畑の片付け等様々な作業をこなし作物が成長できることを今更ながら体験させていただいています。これからの実りの季節に向かって緑の美しい風景が広がりますが、そのためには農家の方々の大変なご苦労があることを知りました。我孫子市全体を見れば、農業に従事されている世帯はかなり減少しているようです。農作業を、高齢化していく世帯だけに任せていくということが大変なことである現状についてもこの活動を通して感じております。

また、作物を市場に出すためには色々な手間がかかっているとのことに驚きました。私たちは消費者として「農産物直売所」の存在を「新鮮な野菜がすぐ手に入る」という安易な考えを持って利用していたのでは、と反省いたしました。枯れかかっている葉の除去、実を大きくするための選別、実に栄養を行き届かせるための下葉かり等店で購入しているときは気にしていませんでした。私たちの食は農家（生産者）の皆さんの努力で成り立っているのだということを身に染みて感じております。

その中で、我孫子の農業を支えている我孫子市や地産地消推進協議会の活動は大変重要であることも理解できました。

いずれ私も好きな野菜を作りたいという野望(!?)を実現したいです。そのために、農作業の基礎を実地で学ばせていただくつもりでこの活動にこれからも参加していきたいと思っております。

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）
（業務日 月・火・木）9：00～17：00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail info@abiko-chisan.com HP <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

